

## (11) 沖縄



沖縄地域では、景気は悪化しつつある。

- ・ 観光は弱い動きとなっている。
- ・ 個人消費はおおむね横ばいとなっている。
- ・ 雇用情勢は極めて厳しい状況にあり、悪化が続いている。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す(〓は上方に変更、〓は下方に変更)

### 前回調査からの主要変更点

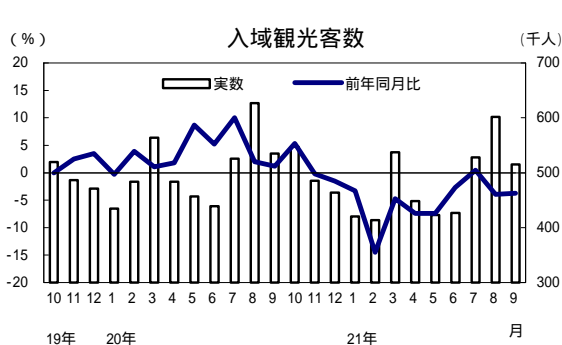
	前回(平成21年8月)	今回(平成21年11月)	
個人消費	弱い動き	<u>おおむね横ばい</u>	
住宅建設	大幅に減少	増加	

### 1. 観光及び企業動向

#### (1) 観光は弱い動きとなっている

入域観光客数は、7月は、上旬の航空会社各社による航空運賃の大幅な割引や東京 - 沖縄路線の増便や臨時便の運行などにより、同月の過去最高を記録した。8月は、お盆時期の需要の9月の大型連休へのシフトや台風による欠航などがあり、前年を下回った。9月は、大型連休を中心に、新型インフルエンザの感染拡大の影響によるキャンセルが発生したことや、10月から燃油サーチャージの再設定による海外旅行への駆込み需要などにより前年を下回った。

主要ホテルの客室稼働率は、新規ホテルの開業が相次いだことや入域観光客数が前年同期を下回ったことから、那覇市内ホテル、リゾートホテルともに前年を下回った。



#### 入域観光客数等の動向

(単位: 千人、%)

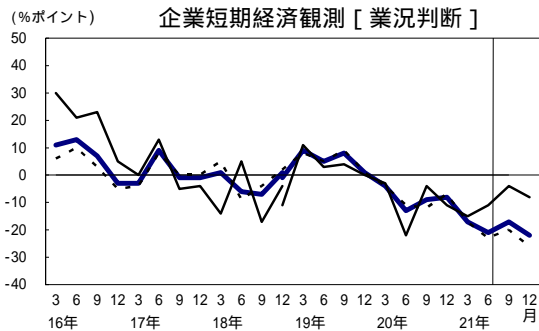
	20年10-12月	21年1-3月	4-6月	7-9月
入域観光客数	1,497	1,371	1,299	1,645
(前年比)	1.3	7.5	5.9	2.5
ホテル稼働率	71.7	70.2	65.7	76.3
(前年差)	0.6	8.0	4.3	4.9

(備考) 1. 入域観光客数は沖縄県観光工商部調べ。

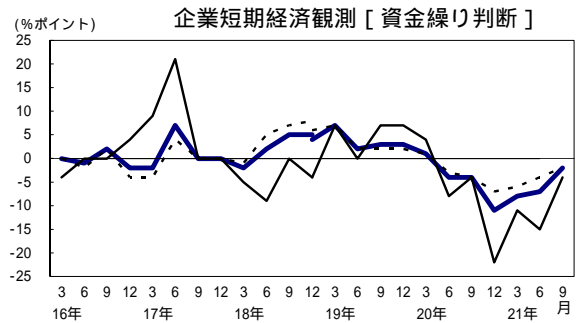
2. ホテル稼働率は日本銀行那覇支店調べ。調査対象は43ホテル。

(2) 企業動向の業況判断は「悪い」超幅が、資金繰り判断は「苦しい」超幅がそれぞれ縮小している。

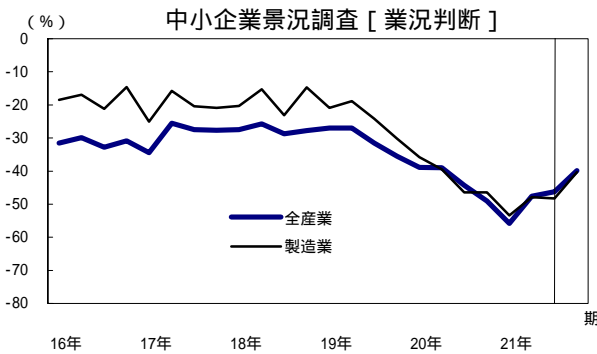
### 企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。21年12月は予測。  
18年12月は新・旧基準を併記。



(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。  
18年12月は新・旧基準を併記。



(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。21年 期は見通し。  
九州(含む沖縄)地区のD I。

### 景気ウォッチャー調査(9月)[企業動向関連(現状)]

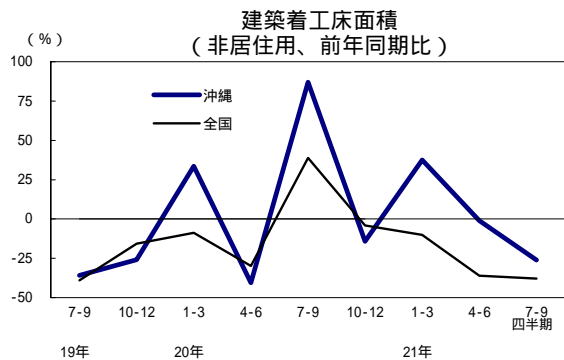
「遅れていた建築確認申請が下り、工事予定物件が着工され、製品出荷が短期的に出ている(窯業・土石製品製造業)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

(3) 21年度の設備投資は前年度を大幅に下回る計画となっている。

### 企業短期経済観測調査 [設備投資(9月調査)]

	(前年度比、%)	
	20年度実績	21年度計画
全産業	10.7	34.1 (7.3)
製造業	109.9	52.3 (0.9)
非製造業	2.3	30.9 (8.1)

(備考)( )は前回(6月)調査比修正率。石油・電力を除く。



## 2. 需要の動向

(1) 個人消費はおおむね横ばいとなっている。

百貨店販売額、スーパー売上高、家電製品販売額

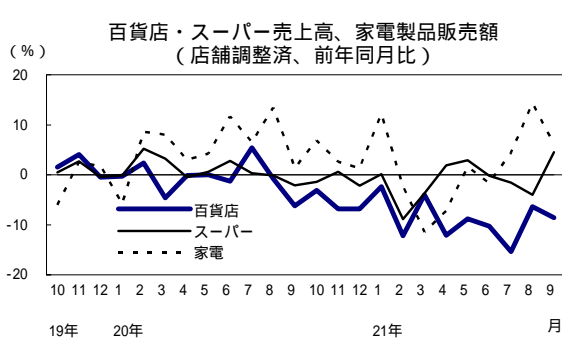
百貨店は、7月は旧盆の月ずれ(旧盆は前年は8月、今年は9月)があったため、食料品ギフトが低調だったため、前年比の減少幅が拡大した。8月は旧盆の関係で食料品ギフトが好調だったため、前年比の減少幅が縮小した。9月は衣料品を中心とした販売不振により、前年比の減少幅が拡大した。

スーパーは、新型インフルエンザ関連商品や家電を含む住宅関連商品の売上が好調だったことなどにより、前年比の減少幅が縮小した。

家電は、テレビやエアコンなどのエコポイント制度対象製品の販売が好調だったことにより、前年を上回った。

景気ウォッチャー調査(10月)[家計動向関連(現状)]

「10月は例年より観光客が減少して、逆に地元客が少し増えている。注文はボリュームがあって低価格帯の料理に集中しており、平均単価は前年より50円低い(その他飲食[居酒屋])」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

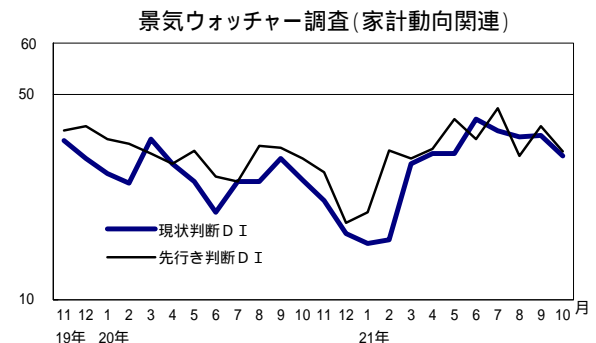
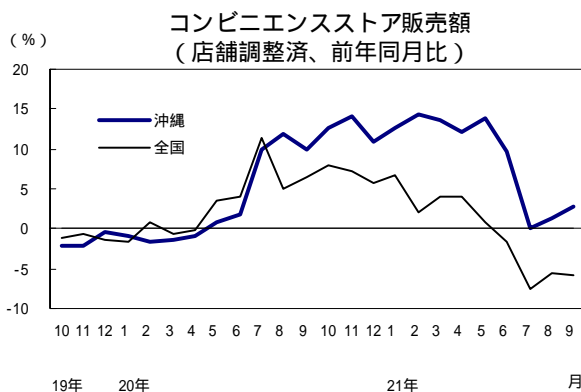


	(前年同期比、%)			
	20年10-12月	21年1-3月	4-6月	7-9月
百貨店	5.7	6.0	10.4	10.3
スーパー	1.1	4.1	1.5	0.6
家電製品販売額	3.3	2.1	2.4	8.0
乗用車	6.8	23.0	20.4	1.5
景気ウォッチャー	28.5	26.4	40.7	42.2

(備考) 1. 百貨店、スーパー、コンビニ(いずれも既存店) 家電(卸売、手数料等を除いたベース)は日本銀行那覇支店調べ。

2. 景気ウォッチャーは家計動向関連の現状判断DIの3か月平均。

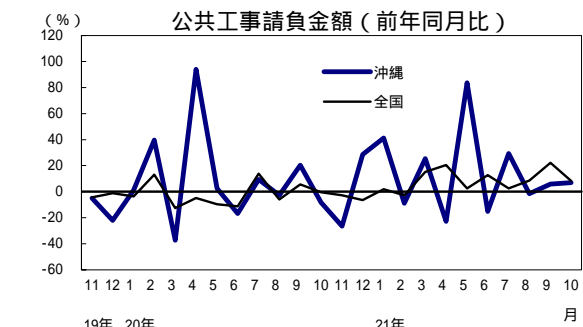
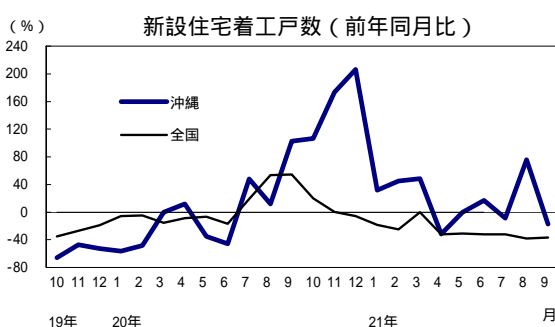
3. 乗用車は乗用車新規登録・届出台数。



(2) 住宅建設は増加している。

貸家が前年を大幅に上回ったことから、全体でも増加している。

(3) 公共投資は21年度累計で見ると前年度を上回っている。

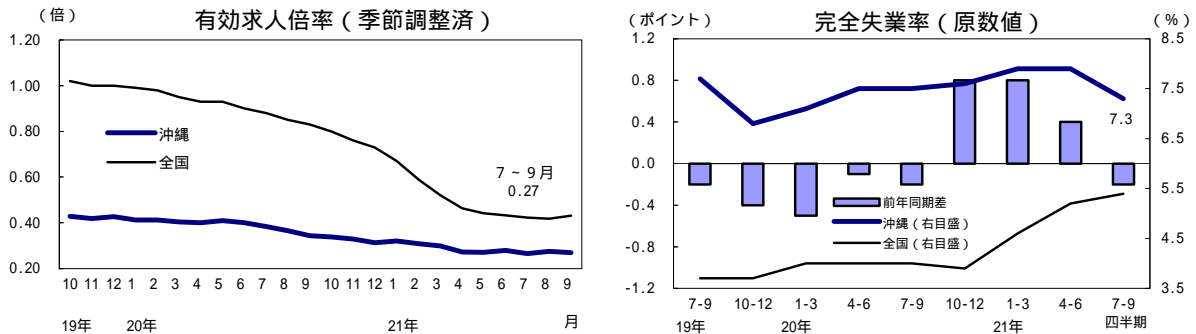


### 3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は極めて厳しい状況にあり、悪化が続いている。

有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率は横ばい、完全失業率は前年同期を下回っている。



(備考) 沖縄県の完全失業率は、沖縄県「労働力調査」より算出。

景気ウォッチャー調査(9月)[雇用関連(現状)]

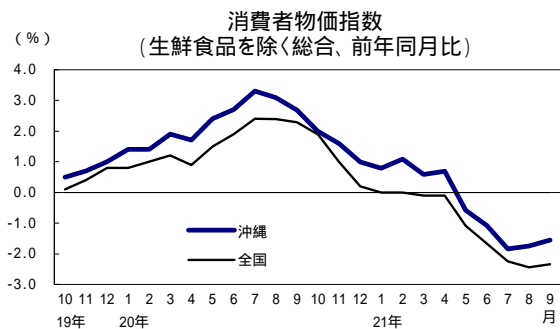
「県内の厳しい状況にほとんど変化は無いが、県外の製造業派遣の企業から求人広告の依頼が少しずつ発生してきている(求人情報誌製作会社)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

(2) 企業倒産は、件数が大幅に減少し、負債総額も減少している。

(3) 消費者物価指数は前年比の下落幅が拡大している。

企業倒産

	(件、億円、%)				
	20年10-12月	21年1-3月	4-6月	7-9月	21年10月
倒産件数	21	24	22	16	2
(前年比)	12.5	7.7	37.5	54.3	77.8
負債総額	25	95	67	43	14
(前年比)	25.6	112.5	35.5	93.0	49.6



景気ウォッチャー調査(10月)[合計(特徴的な判断理由)]

<現状>

・例年並みの集客は維持しているが、秋の台風の影響や新型インフルエンザの再流行の兆しなどで状況はあまり変わらない(旅行代理店)。

<先行き>

・那覇空港新貨物ターミナルビルが落成し、那覇空港を国際貨物ハブ空港とするプロジェクトが稼働している。国内物流が低迷するなか、国際貨物物流が増えることを期待したい(輸送業)。

